

玉川大学 eR@sers ロボカップ世界大会で 準優勝

岡田浩之 ●工学部教授



チームの自己紹介をするロボットeR@ser (写真奥右) とメンバーの大学院生

玉川大学工学部のロボット工房 (Robo Works) に所属する学生を中心として、電気通信大学およびNICT (情報通信研究機構) と合同チームを組んだ、チーム eR@sers (レイサーズ) は、六月二九日から七月五日までオーストリアのグラーツで開催されたロボカップ二〇〇九世

界大会で準優勝しました。ロボカップは、二〇五〇年にサッカーワールドカップに優勝するチームと戦って勝つことを目標にし、ロボット技術を競うもので、サッカーを中心に、レスキューや家庭ロボットなどいくつかのリーグに分かれて世界大会が行われています。

今回、チーム eR@sers が準優勝したのはロボカップ@ホームリーグで、キッチンやリビングルームでさまざまな課題にロボットが取り組み、その達成度により勝敗を競います。日常生活で人間を支援する自律ロボットによる競技を通じて、人とコミュニケーションしながら、より役に立つ仕事を行う実用的なロボットの実現を目指しています。家庭のような環境で、「自己紹介する」「部屋の見取り図を作成する」「部屋の掃除をする」「言われたものを持ってくる」「人を見分ける」などの課題を競うリーグです。

* * *

チーム eR@sers は昨年度の国内・世界両大会制覇の経験を生かして今年も連覇を狙い、五月に大阪市で開催されたジャパンオープンでは圧倒的な成績で優勝し、世界大会に臨みました。六月二九日から始まった世界大会では、ドイツやイラン、チリ、メキシコなど一〇カ国から二〇チームが出場し、世界の強豪チームが集う中、一次予選を首位で突破。一〇チーム

に絞られた二次予選ではハードウェアにトラブルが発生し苦戦を強いられるも中盤で盛り返し、一時は首位に躍り出ましたが、最終的には四位で五チームが競うファイナルに勝ち上がりました。

二次予選終了後、チーム eR@sers のメンバーはほぼ徹夜でロボットを調整。万全の状態ファイナルへ挑みましたが、優勝には一步届かず、惜しくも準優勝となりました。

一、三、四位はいずれもドイツチームで、日頃から交流し合って技術を磨いていますが、日本はまだ層が薄く、国内のチームとの交流も十分ではありません。今回の世界大会ではすべてのリーグを通じてシニア部門で日本チームは優勝できず、eR@sers の二位が最高順位でした。来年はシンガポールで世界大会が開催されます。アジアでの開催ということもあり、日本チームのいつものレベルアップが望まれます。大学八号館にあるロボット工房はいつでも自由に見学ができます。皆さんもぜひ、ロボット工房でロボット eR@sers をご覧になってください。